

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

【中期目標・指標】標準スコアを各学年の平均51以上にする。
 【短期目標・指標】標準スコアを各学年の平均50.5以上にする。

3. 指標にむけての取組

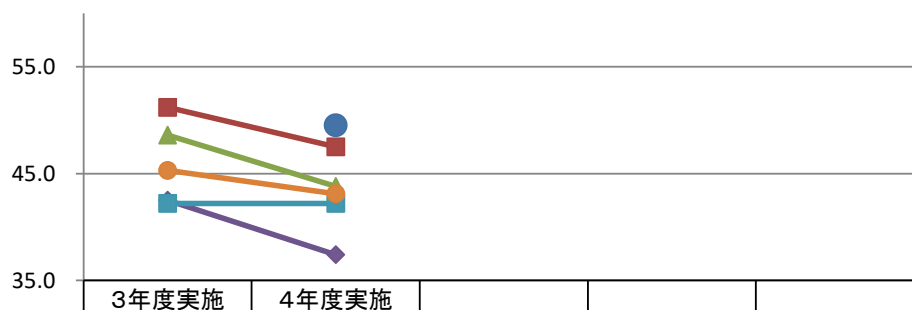
- ・主体的な学習を目指す授業改善(自分の考えを書く、伝える活動・学びの振り返り)
- ・算数科における、複数体制での指導
- ・授業の中での思考を伴う書く活動の位置付け
- ・児童が落ち着いて学習に取り組むことができるための環境整備

4. 調査結果

※学校の標準スコア平均(国語・算数)の2年間の推移 (標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

年度	3年度	4年度			
本校(A)	45.8	43.9			
嘉麻市(B)	47.0	47.2			
(A) - (B)	-1.2	-3.3	0.0	0.0	0.0
全国値との差 (A) - (50)	-4.2	-6.1	-50.0	-50.0	-50.0

各学年の標準スコアの推移



	3年度実施	4年度実施
4年度1年生		49.5
4年度2年生	51.2	47.5
4年度3年生	48.6	43.8
4年度4年生	42.5	37.4
4年度5年生	42.2	42.2
4年度6年生	45.3	43.1

5. 各学校における分析

○平均の標準スコアが、国語科43.5、算数科44.2と、ともに全国値50を下回っている。特に、記述式の問題の正答率が低い傾向にある。

○国語科においては、特に基礎に課題があり、「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域の課題が大きい。

○算数科においては、特に活用に課題があり、「図形」「変化と関係」「データの活用」に課題が大きい。

○算数科における複数体制による学習や、重要単元における分割授業を行うことで、自分の考えをつくるのが難しかった児童も自力解決へ導くことができたり、進んで問題に取り組む姿勢が見られたりした。依然として課題はあるものの、記述式の回答にも何とか自分の考えを書こうとする態度につながったと考える。

○週1回のチャレンジタイムにおいて、複数体制での指導を行い、補充・活用問題に取り組みさせたことは、学習内容の定着につながると考える。より学力層C・D層に着目した効果的な取り組みを行っている。

6. 各学校における今後の取組

○全職員で、本校の学力の推移や課題について共通理解を図り、全学年での学力を支える取組の徹底を図る。

○学びの構えを確かめ、学習規律の徹底を図る。

○週一回のチャレンジタイムを設定し、国語・算数の補充・発展問題に取り組むことができるようにし、複数体制での指導を行う。

○算数科を中心に、思考を促す授業づくり(書く活動・交流活動・振り返り活動)を行い、基礎基本の定着を図る。

○算数科を中心に、各学年の重要単元を洗い出し、学力層C・D層の児童を考慮した効果的な指導形態(TT指導・分割授業等)を踏まえて、年間を見通した指導計画を作成し、実践する。

○授業の振り返りの段階において、形成的評価を行うなど、次時への学習の課題を明確にした授業づくりを行う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。